

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 1 日

【評価実施概要】			
事業所番号	3870105693		
法人名	医療法人 河原病院		
事業所名	グループホーム ひめ椿		
所在地	愛媛県松山市今在家4丁目7番28号 (電話) 089-905-1411		
管理者	山口 聡美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 12 月 6 日	評価確定日	平成 20 年 2 月 5 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 18 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 81.5 歳	最低 59 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】
ホームは静かな住宅街にあり、田園に囲まれた2階建てのゆったりした建物である。2ユニット共通の玄関前には花鉢が置かれ、訪問しやすい雰囲気を作っている。運営法人は介護老人保健施設、高齢者総合福祉施設、グループホーム等を運営しており、高齢者福祉に積極的に取り組んでいる。医師である法人代表は週に1度ホームを訪れ、利用者の健康状態をチェックしている。同じ町内にある介護老人保健施設に看護師がおり、電話連絡や行き来できる体制が整っている。ホームは開設2年目を迎え、利用者同士や職員との会話や笑顔が多く見られ、落ち着いてい

【質向上への取組状況】
▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
前回評価を受け、全職員が話し合い、家族からの苦情受付箱を玄関に設置し、玄関入り口やリビングに利用者と職員が作った季節の作品を飾り、ユニット会議とは別に全職員参加の会議を設けるなど、改善を図っている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
自己評価は全職員が行い、各ユニットの主任がまとめている。今回の評価結果は職員会議で話し合う予定である。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
運営推進会議のメンバーは町内会長・副会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、利用者、利用者家族、同一法人の運営するグループホーム管理者などで構成し、ホームの予定や近況報告を行っている。今後、ホームの困っていることや、地域の高齢者福祉に関して情報提供していくような話し合いが持てるよう期待したい。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
家族の意見は面会時職員に直接伝えられることが多い。訪問回数の少ない家族へは、電話で連絡を取っている。「ホーム便り」を3か月に1度発行し、利用者の担当職員が利用者の健康状態や近況を伝えている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
運営推進会議を通して町内会長や民生委員から地域の情報を得ている。地域の祭りなどの行事だけでなく、ごみ当番など奉仕活動にも参加している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム ひめ椿

(ユニット名)

もみじ

記入者(管理者)

氏 名

山口 聡美

評価完了日

平成 19 年 11 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 居心地の良い「家」にいる雰囲気づくり、失われた能力を引き出せるよう支援、向上心を持って生活できるような場の提供を、掲げている。	※	笑顔のある、穏やかで楽しく生活できるように支援している。
			(外部評価) 基本理念の「笑顔を忘れない暮らし」は職員全員で作ったものである。「安心できる生活、自立の支援、向上心のある生活」を目標として、利用者の『生きがいのある生活』を管理者と職員は心がけている。	※	開設2年目を迎え、近隣住民との挨拶や運営推進会議を通して徐々に近隣との関わりができていく。地域との関わりを理念として明文化することにより、職員の日々のケアに反映していくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 認知症を緩和し、安心できる生活、また、機能や能力低下をさせない為、無理のない生活・リハビリを行っている。	※	日々の生活の中で、出来ることや簡単な体操を取り入れたり、気がついたことなど話し合い、協力体制を取っている。
			(外部評価) 管理者は理念に基づく目標を職員の目につくように事務所入口に掲げている。ユニット会議や全体職員会議で困ったときに振り返り、介護のヒントにしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族の方には、面会時に日々の暮らしぶりを説明し、地域の方には行事を通じて理解して貰っている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩に出掛けたときや、近隣の方と出会ったときなど、こちらから進んで挨拶をするように心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の夏祭り、秋祭りなどの行事に参加している。 (外部評価) 地域の行事ごとだけでなく、ごみ置き場の清掃当番などに参加している。管理者は町内会長から地域の情報を得て、職員と検討して、利用者の参加できるものを選択している。	※	ゴミ捨て場の清掃にも参加しているが、ホームに訪れて貰えるように努めたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 取り組めていない。	※	どのようにしていけば良いのか、模索している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価を受けた事を機に少しずつ改善していつている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は自己評価の意義を理解し、全職員が自己評価を行っている。全体職員会議で外部評価の結果について話し合い、できることから改善を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度の会議を開催し、地域の方との意見交換をしている。		
			(外部評価) 運営推進会議でホームの現状や予定の報告を行うとともに、地域行事の情報等も得ている。利用者がドライブを楽しめる場所を尋ね、複数の回答の中から「砥部焼きの絵付け」に出かけたこともある。	※	地域の行事ごとやイベントにとどまらず、日常の困ったことを相談したり、高齢者福祉について情報提供する会になるよう期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 現在、推進会議以外では行き来する機会を作れていない。	※	サービスの質の向上に取り組めるよう、行き来出来るように努める。
			(外部評価) 市に担当職員が複数おり、行政からのアドバイスをもらっている。母体法人の運営する介護保険施設と合同で行う文化祭に来てもらうなど、関係づくりができています。市主催の研修会にも参加している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度自体は知っているが、全職員が制度の活用・十分な説明が出来る体制ではない。	※	制度の活用に関して全職員が利用者家族・地域等に説明できるように学習を行い、活用できるように努めたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) あってはならないことであり、ホーム内での安全を計らい、虐待など見過ごすことのない様に努めている。	※	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会があれば、参加したい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネジャーが対応している。	※	管理者が変更して後、新しい入居者が居ない為。また、契約内容の説明が全職員が把握できるようにしたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付箱の設置をしている。	※	苦情など直接言ってこられた時など、職員集合の元、話し合いをし改善に努めている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 健康状態など、急を要する場合は電話連絡にて対応。季節に応じた行事、日々の状況などお便りを発行している。 (外部評価) 3か月に1回「ホーム便り」を発行しており、「担当者からのコメント」のスペースを設け、利用者の健康状態や外出先での楽しかった様子を伝えるなどの個人通信に利用している。金銭出納帳のコピーや介護計画も郵送している。職員の異動時には面会や電話で報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方からの苦情に対して、職員との話し合いを行っている。 (外部評価) 前回評価を受け苦情受付箱を設置している。家族からの意見は、面会時や電話で直接受けることが多い。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会を月一度行い、利用者様の状況の理解を全員が把握できるように意見交換している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) その時の状況に応じ、支障のない様に調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員が交代する場合は、利用者様にダメージを与えないように紹介・引継ぎなどを十分に行っている。 (外部評価) 急な異動(退職)があり、利用者が血圧上昇など体調不良となったことがあったが、全職員が声かけの機会を多くして利用者の理解が得られるよう努力し、安定を取り戻している。管理者は緊急時を想定してユニット間の職員異動を行い、顔なじみの関係づくりに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内での勉強会、研修など参加している。 (外部評価) 管理者は市や県、県外からの研修案内を職員に伝えている。法人内の他の施設で感染症など介護に関する研修が開かれており、職員の希望や段階に応じて受講している。研修内容は全体の職員会議で報告し、知識の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会などに参加し、地域の同業者等と交流する機会を持つようにしている。 (外部評価) 運営推進会議の際には同一法人の運営するグループホームの管理者が出席している。またその逆も行なわれ、共同で介護サービスの質の向上を図っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員会や日常の会話などにより職員の意見を伺い、ストレスの軽減に努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員個々のことを把握し、個々が向上心を持って働けるよう、努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人からの訴えには、その都度傾聴し、受け止めている。	※	訴えに関して、全職員に伝え受け止め、安心できるよう、対応していきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時を通じて話を聞くように心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けたとき、出来ることのサービスには対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族様からよく話を聞き、今までの生活を継続できるように、対応している。 (外部評価) 入居希望の利用者、家族の見学は随時受け入れている。自宅から入所の場合は入居前に自宅を訪問して本人の暮らしぶりや家族の意向を把握している。病院から入所の場合はケアマネジャーから電話連絡を受け、病院を訪れて利用者と家族から病歴や生活歴の情報収集をしてからの入居となる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者様を尊重し、お互いに協力し合いながら過ごせるように支えあっている。 (外部評価) 畑の草花の名前を利用者から教えてもらうことが多い。食事中に食べ物を落とした際、隣の利用者が拾ったり、職員を呼んだりして、利用者同士、利用者と職員同士の助け合う場面が見られる。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様を尊重し、支えていくことが家族の方との信頼に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者様と家族様との関係を念頭に置き、スムーズにいけるよう、努める。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前の人間関係が良く理解できていない。	※	支障のない限り、家族様からの話を受け入れるようにしたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者様同士が話をされたり、その家族様や友人の方などにも挨拶や話しかけられたりしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 難しいのではないかと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様からの希望や要望など、その都度言ってもらっている。 (外部評価) 一日の流れの「記録シート」に、「うれしい、かゆい、気持ち悪い」など、利用者の言葉を書き込み、本人の意思を次の介護に反映している。「生活日誌・夜勤日誌」に転記して申し送り、「個人ファイル」にも転記している。レクリエーションもしているが、困難な人には話を聞いてあげたり、体に触れて気持ちを落ち着かせるなどしている。	※	要望に応えられる様に努めていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の生活歴やサマリーによる記録に目を通し、把握する。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一日の生活を時間毎に記録しているが、詳しい記録は不完全である。	※	記録について詳しく出来るように、もっと利用者様の状況把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様、家族様等に話を伺い、作成している。 (外部評価) 介護計画は家族の希望を面会時や電話で聞き取り、職員会議で話し合って作成している。作成後には家族の署名・捺印をもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の見直しや、新たな計画を作成するよう、努めている。 (外部評価) 通常3～4か月ごとの作成であるが、毎月のユニット会議では全利用者に対して話し合いを持っている。心身の状態に変化があった場合や家族からの希望が出た場合は、その都度カンファレンス会議を行い、介護計画を立て直し、新たに作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人ひとりの日々の様子や状況・状態を細かく記録し、介護計画の見直しに活かせるよう、努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 要望に対しての支援をするように努めている。 (外部評価) 通院は原則家族の協力を仰ぐが、急なけがなど病状によっては職員が付き添っている。外出の希望は買物、公園、コンビニなど細かく対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 行事などに関してのボランティア参加を協力して貰っている。	※	消防との防災訓練は予定している。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用していない		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 利用していない。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者様、家族様の希望される医療を受けている。 (外部評価) 利用者・家族の希望により、かかりつけ医を決めている。歯科医も往診に訪れ、口腔ケアのチェックが行なわれている。病院受診後は家族に結果を報告している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者様の状態に応じ、河原医院に受診しているが、認知症に関しての詳しい専門医の連携は計れていない。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 特変があった場合には、同系列の施設の看護師に相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院の場合は、医療機関との連携を取り、病状の確認を取りながら支援体制を取っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 具体的な話し合い・方針は出来ていない。 (外部評価) 高齢の利用者が多く、心身ともに介護度が上がってきている。入居時に、家族に対して重度化した場合の説明をきちんと行っている。職員は面会の時に現状について話をしている。しかし、ホーム内会議で終末期について討議をしたことはない。	※ ※	今後検討し、決めていく。 職員同士で、できること・できないことを話し合い、方針を共有し、家族に機会を見つけて何度も伝えていくことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 具体的な話し合い・方針は出来ていない。	※	今後検討し、決めていく。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えによるダメージを防ぐ為にも家族様、ケア関係者同士で十分な話し合い、情報交換を行うよう、努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりの言葉掛けや対応に気をつけ、個人記録など、プライバシーの侵害がない様に取り扱っている。		
			(外部評価) 職員は、一人ひとりに寄り添ってゆっくりと声かけしている。書類は各ユニットの中央部分にある事務所で一括保管され、事務所で記録をするなど、プライバシーに配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 失語症の利用者様には、ゆっくり話を聞きながら、納得のいくように決定して貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人のペースに合わせて無理なく自由に過ごして頂いているが、時間的制約がある行事などの時には、こちらの都合に合わせて貰っていることもある。 (外部評価) 一日のおおまかな流れは決まっているが、利用者の意向を確認しながら臨機応変に対応している。散歩や歩行訓練、レクリエーション、一緒にいてほしい、話を聞いてほしいなどの要望も、職員と一人対一人など少人数で、その人の立場に立って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 馴染みの理美容院へ出掛けしている方もいるが、月に一回、理美容師さんに来所して貰っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な調理準備をして貰ったり、下膳、食器拭きなど一緒にして貰っている。 (外部評価) 食事介助の必要な利用者には職員が傍で見守りながらさりげなく支援している。利用者により、箸、フォーク、介護用スプーンなどを用意している。男性の入居者も多いが、下膳などできることはしてもらうようにしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 買い物をしたり、家族様が持ってこられた物を召し上がって頂いている。	※	身体的に制約のある方は、ホーム預かりで管理している。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、誘導を行ったり、状態により紙パンツ、おむつの使用をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一般浴と機会浴に分けて週3回入浴するよう、対応している。 (外部評価) 体調や外出の予定も考慮して週3回の入浴支援を行なっている。1階に機械浴と一般浴、2階に一般浴の設備がある。建物にエレベーターが設置されており、2階の利用者も機械浴を利用できる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 換気や温度調節に注意し、安眠しやすい環境を整えている。安眠できない利用者様には、主治医の指示の元、薬を服用して頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 散歩や買い物など、時間が許す限りしているが、外出などの行事は計画・実施している。 (外部評価) 利用者は、壁の飾り付けやお菓子作りの仕上げを職員と共に行なっている。利用者は歌ったり、踊ったりすることを好み、CDをかけて楽しんでいる。夏祭りの盆踊りは利用者に好評であった。畑の水やりや草抜きなども職員と一緒にしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理能力のある利用者にはして貰っているが、そうでない方は、ホームが管理し、買い物の時に支払い、楽しんで貰っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 毎日は出来ないが、天候や本人希望により行っている。 (外部評価) 利用者の希望により外出支援を行っている。「記録シート」や「生活日誌・夜勤日誌」で外出チェックをして、少ない人には声をかけるようにしている。敷地内が広いので車いすでもゆっくり歩いても十分な散歩スペースがある。車を使った遠出も月に1度は企画し、季節を感じられる外出を行なっている。気分転換に外食も行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族様と連絡を取り、了解のもと、外食やドライブに出掛けている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由に連絡して貰っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 時間的な制限はなく、訪問された時に気持ちよく過ごして頂くように配慮している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の弊害を認識しており、身体拘束のないようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 徘徊される方がおり、安全を大切に考え、玄関の施錠をしている。	※	日中の所在確認を十分に目を配り、施錠しないでいように努めていきたい。
			(外部評価) 道路に面した門扉は開けているが、日中、安全を考慮し、家族に了解を得て玄関扉は施錠している。夜間は防犯のため施錠している。	※	管理者は、施錠することの弊害を十分に理解している。声かけ、見守りを中心に他の方法についても考慮することを期待する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 徘徊される方がいる為、所在確認を怠らないよう努め、夜間の巡視、物音に注意し、転倒など無いように努める。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 家具などの配置・薬・洗剤などの置き場所に気をつけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示に従い、間違えないようにしている。薬の変更があった場合など連絡・確認をして他職員に申し送る。	※	誤薬のないように、食後必ず手渡しして服用している。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急処置のマニュアルをおいており、全職員が瞬時に対応できるという体制ではない。	※	全職員が対応できるよう、勉強会等を通して行っていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議において、地域の方たちの協力を得られるように、働きかけている。 (外部評価) 防災訓練は年2回実施している。市の消防訓練研修を受けている。町内会長が訓練に関して地域の方々との窓口になっている。緊急時連絡網は職員用と家族用を作成している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 家族様が来所された時に説明してはいるが、来られてない家族様に対しての説明は不十分である。	※	今後、電話などで説明をするなど、対応していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日の記録に目を通し、一人ひとりの状態・異変に気づいた時には、申し送りや連絡ノートで対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の処方に従い、服薬の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量の把握、排便チェックを行っている。便秘時には排便を促すお茶を摂取していただいたり、腹部マッサージ等を行なっている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声掛けして口腔ケアをして貰い、介助の必要な方には共に行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の立てた献立により、調理している。水分量のチェックは記録にて行っており、一人大体1500CC～2000CCを目安としている。 (外部評価) 介護老人保健施設の栄養士が献立を立てている。材料は一括購入で、調理はホームで職員が行なっている。嚥下困難だがパン食を好む利用者にはパンを調達したり、野菜が硬くて噛めない利用者には野菜ジュースを提供している。食事・水分摂取量は全利用者を記録している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルを作成し、「一介護・一手洗い」とうがいの励行に努めている。	※	手すりの消毒を行い、外部からの予防対策に取り組んでいきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材、調理器具、食器などの洗浄を行っている。生魚・生肉のあとのまな板・包丁の消毒を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りの清掃・鉢植えなどを行っている。	※	玄関周りにスロープの設置が必要ではないか。傾斜の角度がある為。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各居室において、日当たり良く明るい為、カーテンでの調節行い、西日が入る為、立てずなどで対応している。 (外部評価) リビングには大きな窓が2つあり、明るく風通しもよい。壁には利用者の希望により、散歩の途中に拾ったイチョウの葉や季節の飾り付けをしている。玄関前に緩やかなスロープがあるので、手すりの配置などを検討することが望まれる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにはテレビ・ソファを設置しており、自由に利用して貰っている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人と家族様との希望により、馴染みのある物・家具・絵画など、持ちこみをして頂いている。 (外部評価) 筆筒、エアコン、カーテンは備え付けで、寝具や家族写真、絵など利用者の好みの物を持ち込んでいる。家族から床にマットを敷いて欲しいとの要望があったが、車いす転倒に配慮し、一部のみにするなど、職員は家族と共に利用者の暮らしやすい居室づくりに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 起床時・清掃時には窓を開け換気を行い、快適に過ごせるように冷暖房機など、温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、階段、トイレ、浴室には手すりを設置している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりに自立できるように声掛けをし、ゆっくりと行動を共にし、本人の訴えも受け入れ支援している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭には畑があり、野菜を植えたりしているので、水遣りをしたり、収穫を楽しんで頂いている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者様の要望を言ってもらっており、また、家族様からの要望も言ってもらっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者様に話しかけることを心がけ、昔話をしたり、ゲーム、歌を歌ったりして過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出や行事の時意外は、各居室やフロアなどでテレビを見たり、話をしたりされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	今まで出来なかったことが一つでき、出来ることが増えた方や、レベルが上がり、笑顔が多くなった方などがおられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調や天気によって左右されるが、なるべく希望に沿えるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックを行い、状態に応じ、かかりつけの医療機関に受診している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望に応じて、健康面・生活面において支障のない限り対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会に来られた時など、日々の生活状況の様子や昔の話をしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	会議や行事の時などに来てもらっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	お祭りや行事の参加などで少しずつ広がってきている。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	仕事中のトラブルなど、お互いに意見交換を行い、解決していつている。 困った時など、お互いに助け合っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりの要望に全て応えることは出来ないと思うが、健康管理・食事面・衛生面など気をつけている他、外部との交流も出来ていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	グループホームとは？の認識が家族の方に理解されていないことがあり、全てにおいてホームがするのが当たり前という方も中にはおられるが、他の方々は、理解して頂いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者が安心・安楽に暮らして頂けるよう、コミュニケーションを十分に図り、サービス提供に努めていきたい。

- ・地域の行事参加、同系列施設への行事参加
- ・外出・・・利用者の要望を取り入れながら、行き先を考えている。
- ・畑で作物を育て、収穫して頂く。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム ひめ椿

(ユニット名)

さくら

記入者(管理者)

氏 名

山口 聡美

評価完了日

平成 19 年 11 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念は定められており、それに基づくように活動している。 (外部評価) 基本理念の「笑顔を忘れない暮らし」は職員全員で作ったものである。「安心できる生活、自立の支援、向上心のある生活」を目標として、利用者の『生きがいのある生活』を管理者と職員は心がけている。	※	開設2年目を迎え、近隣住民との挨拶や運営推進会議を通して徐々に近隣との関わりができていく。地域との関わりを理念として明文化することにより、職員の日々のケアに反映していくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送り等で理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。 (外部評価) 管理者は理念に基づく目標を職員の目につくように事務所入口に掲げている。ユニット会議や全体職員会議で困ったときに振り返り、介護のヒントにしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を開催し、地域の人に理解を促している。また、家族様にも入居時重要事項説明書等により説明し、理解して頂いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の人と会えば挨拶や会話などを行っている。日常的に付き合いが出来るよう、努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の秋祭りや夏祭りなど声を掛けて頂き、参加している。敬老会にも誘って頂いた。また、ごみ当番にも参加し、交流することに努めている。 (外部評価) 地域の行事ごとだけでなく、ごみ置き場の清掃当番などに参加している。管理者は町内会長から地域の情報を得て、職員と検討して、利用者の参加できるものを選択している。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者等の暮らしに役立つことの話し合いは出ていない。	※	運営推進会議などで話し合い、取り組めるよう努める。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価で指摘のあったことを改善できるよう取り組み、努めている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は自己評価の意義を理解し、全職員が自己評価を行っている。全体職員会議で外部評価の結果について話し合い、できることから改善を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、出された意見をしっかり受け止め、話し合い、サービスの向上に活かすよう努めている。		
			(外部評価) 運営推進会議でホームの現状や予定の報告を行うとともに、地域行事の情報等も得ている。利用者がドライブを楽しめる場所を尋ね、複数の回答の中から「砥部焼きの絵付け」に出かけたこともある。	※	地域の行事ごとやイベントにとどまらず、日常の困ったことを相談したり、高齢者福祉について情報提供する会になるよう期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 現在、推進会議以外では行き来する機会を作れていない。	※	サービスの質の向上に取り組めるよう、行き来出来るよう、努める。
			(外部評価) 市に担当職員が複数おり、行政からのアドバイスをもらっている。母体法人の運営する介護保険施設と合同で行う文化祭に来てもらうなど、関係づくりができている。市主催の研修会にも参加している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、入居者に該当する方はおらず、支援できていない。また、学ぶ機会も十分に持てていない。	※	今後、該当者には説明を行い、要望に応じて活用出来るよう、支援を行う。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員一人ひとりが虐待防止に努めている。学ぶ機会も持てていない。	※	勉強会等により、学ぶ機会を持ちたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 面談時や入居時に説明を行い、理解・納得して頂いている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 機会を設けてはいないが、入居者が直接職員に言える環境であり、また、苦情受付箱の設置をしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時には近況報告を十分に行っている。金銭管理は毎月収支状況を送付している。また、二ヶ月に一回、ホーム便りを作成している。 (外部評価) 3か月に1回「ホーム便り」を発行しており、「担当者からのコメント」のスペースを設け、利用者の健康状態や外出先での楽しかった様子を伝えるなどの個人通信に利用している。金銭出納帳のコピーや介護計画も郵送している。職員の異動時には面会や電話で報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 機会を設けてはいないが、玄関に苦情受付箱を設置している。また、面会時に会話する事により、意見等を伺っている。 (外部評価) 前回評価を受け苦情受付箱を設置している。家族からの意見は、面会時や電話で直接受けることが多い。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会を開き、職員の意見・提案を聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 職員の勤務調整など希望を聞き、柔軟な対応が出来るよう、努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員が交代する場合は、利用者様にダメージを与えないように紹介・引継ぎなどを十分に行っている。 (外部評価) 急な異動(退職)があり、利用者が血圧上昇など体調不良となったことがあったが、全職員が声かけの機会を多くして利用者の理解が得られるよう努力し、安定を取り戻している。管理者は緊急時を想定してユニット間の職員異動を行い、顔なじみの関係づくりに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内での勉強会、研修など参加している。 (外部評価) 管理者は市や県、県外からの研修案内を職員に伝えている。法人内の他の施設で感染症など介護に関する研修が開かれており、職員の希望や段階に応じて受講している。研修内容は全体の職員会議で報告し、知識の共有を図っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会などに参加し、地域の同業者等と交流する機会を持つようにしている。 (外部評価) 運営推進会議の際には同一法人の運営するグループホームの管理者が出席している。またその逆も行なわれ、共同で介護サービスの質の向上を図っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員会や、日常の会話などにより職員の意見を伺い、ストレスの軽減に努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員個々のことを把握し、個々が向上心を持って働けるよう、努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面談・相談時に本人の訴え等を聞き、受け止める努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面談・相談時に家族の訴え等を聞き、受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談があった時に入居に関した対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人よりも家族様が希望する日に入居されている事が多い為、本人が納得していたりしていなかったりする場合もあると思うが、本人には早く慣れて頂けるよう、努めている。(入居当初は家族様に面会に多く来て頂いたり、外泊をして頂いたり) (外部評価) 入居希望の利用者、家族の見学は随時受け入れている。自宅から入所の場合は入居前に自宅を訪問して本人の暮らしぶりや家族の意向を把握している。病院から入所の場合はケアマネジャーから電話連絡を受け、病院を訪れて利用者と家族から病歴や生活歴の情報収集をしてからの入居となる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 信頼関係を築けるよう、コミュニケーションを図ったりと努めているが、認知が進むにつれ意思疎通が困難になり、職員の意思を通してしまう事がある。 (外部評価) 畑の草花の名前を利用者から教えてもらうことが多い。食事中に食べ物を落とした際、隣の利用者が拾ったり、職員を呼んだりして、利用者同士、利用者と職員同士の助け合う場面が見られる。	※	本人の希望・要望を組み取ることが出来るよう、努力していく。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方とも、その方の状況報告と共にどう支援していくか、要望等を聞き、信頼関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族の関係について理解・把握し、面会時等に交流が行えるよう、支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の希望に沿いながら文通を支援したり（郵便物を投函したり）して、馴染みの人と関係が途切れないように支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は理解できている。利用者間でトラブルが発生した際には、職員が間に入り、一人ひとりが孤立しないよう、努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用者様やその家族様の要望を聞き、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりの希望を把握し、無理・強要しないよう、本人本位に過ごして頂いている。 (外部評価) 一日の流れの「記録シート」に、「うれしい、かゆい、気持ち悪い」など、利用者の言葉を書き込み、本人の意思を次の介護に反映している。「生活日誌・夜勤日誌」に転記して申し送り、「個人ファイル」にも転記している。レクリエーションもしているが、困難な人には話を聞いてあげたり、体に触れて気持ちを落ち着かせるなどしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり把握できるよう、フェースシートを読んだり、本人や家族との会話の中から情報を得よう、努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの行動・様子・言動等を観察・記録し、職員全員が把握出来るよう、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様、家族様等に話を伺い作成している。 (外部評価) 介護計画は家族の希望を面会時や電話で聞き取り、職員会議で話し合って作成している。作成後には家族の署名・捺印をもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の見直しや新たな計画を作成するよう、努めている。 (外部評価) 通常3～4か月ごとの作成であるが、毎月のユニット会議では全利用者に対して話し合いを持っている。心身の状態に変化があった場合や家族からの希望が出た場合は、その都度カンファレンス会議を行い、介護計画を立て直し、新たに作成している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人ひとりの日々の様子や状況・状態を細かく記録し、介護計画の見直しに生かせるよう、努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入居者の状況に応じて同系列の施設の看護師に来てもらい、処置したり、主治医の指示を仰いだりと、柔軟に対応できている。 (外部評価) 通院は原則家族の協力を仰ぐが、急なけがなど病状によっては職員が付き添っている。外出の希望は買物、公園、コンビニなど細かく対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアや消防、必要時には警察と、必要に応じ、地域資源と協力しながら支援できている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じ、管理者やケアマネジャーが同系列の施設の相談員に話をし、支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 利用していない	※	今後、利用できるよう協働を働きかけていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に希望を聞き、それに沿った支援を行っている。 (外部評価) 利用者・家族の希望により、かかりつけ医を決めている。歯科医も往診に訪れ、口腔ケアのチェックが行なわれている。病院受診後は家族に結果を報告している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の専門医との連携は取れていない。	※	今後、検討していきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同系列の施設の看護師に相談し、必要時には対応して貰い、日常の健康管理等の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時や退院時、サマリーを授受して互いに情報提供を行い、情報交換に努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 話し合いは行えていない。 (外部評価) 高齢の利用者が多く、心身ともに介護度が上がってきている。入居時に、家族に対して重度化した場合の説明をきちんと行っている。職員は面会の時に現状について話をしている。しかし、ホーム内会議で終末期について討議をしたことはない。	※ ※	今後、家族様と話をする機会を作り、把握していく。 職員同士で、できること・できないことを話し合い、方針を共有し、家族に機会を見つけて何度も伝えていくことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) グループホームで可能な限りを過ぎて頂き、本人がより良く暮らせるよう、今後の変化に備えて検討・話し合いは行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えによるダメージを防ぐ為にも家族様・ケア関係者同士で十分な話し合い、情報交換を行うよう、努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーを損ねるような対応や個人情報の取り扱いはない。 (外部評価) 職員は、一人ひとりに寄り添ってゆっくと声かけしている。書類は各ユニットの中央部分にある事務所で一括保管され、事務所で記録をするなど、プライバシーに配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己決定出来るように支援している。本人のペースに合わせた働きかけが出来ている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望に沿えるように、一人ひとりのペースに合った支援が出来るよう、心がけている。 (外部評価) 一日のおおまかな流れは決まっているが、利用者の意向を確認しながら臨機応変に対応している。散歩や歩行訓練、レクリエーション、一緒にいてほしい、話を聞いてほしいなどの要望も、職員と一人対一人など少人数で、その人の立場に立って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の望む店には行けていないが、カット・パーマ・毛染めは施設に来てくれる美容師にて行っている。	※	本人の望む店の希望があった場合は家族様の対応をお願いするよう、働きかけていきたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日は困難であるが、行事時の下拵え（野菜切り、おにぎり等をにぎる）や、もやしの根きり、昆布切りなど、手伝って頂いている。 (外部評価) 食事介助の必要な利用者には職員が傍で見守りながらさりげなく支援している。利用者により、箸、フォーク、介護用スプーンなどを用意している。男性の入居者も多いが、下膳などできることはしてもらうようにしている。	※	利用者にも出来る、簡単な調理の参加を計画していく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲みものやおやつは家族の差し入れを自由に食べて頂き、喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 可能な限り、オムツの使用を減らすよう、努めている。一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、トイレ誘導を行い、気持ちよい排泄が出来るよう、努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日は一応決めているが、その日の体調や状況に合わせて、臨機応変に対応できている。 (外部評価) 体調や外出の予定も考慮して週3回の入浴支援を行なっている。1階に機械浴と一般浴、2階に一般浴の設備がある。建物にエレベーターが設置されており、2階の利用者も機械浴を利用できる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調、希望に応じて休息して頂いている。不眠の方には主治医の処方により、眠剤服用のもと、安眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 外出や行事等、参加して頂き喜んで頂いているが、回数的に十分な支援は行えていない。 (外部評価) 利用者は、壁の飾り付けやお菓子作りの仕上げを職員と共に行なっている。利用者は歌ったり、踊ったりすることを好み、CDをかけて楽しんでいる。夏祭りの盆踊りは利用者に好評であった。畑の水やりや草抜きなども職員と一緒にしている。	※	張り合いや、楽しい日々を過ごして頂けるよう、今後話し合い計画していきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理が出来る方は小額、小遣い程度所持されている。また、使用できるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿った外出は出来ておらず、職員の対応できる状況時に外出している。 (外部評価) 利用者の希望により外出支援を行っている。「記録シート」や「生活日誌・夜勤日誌」で外出チェックをして、少ない人には声をかけるようにしている。敷地内が広いので車いすでもゆっくり歩いても十分な散歩スペースがある。車を使った遠出も月に1度は企画し、季節を感じられる外出を行なっている。気分転換に外食も行っている。	※	なるべく希望に沿えるよう、努めていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個人の対応は出来ていないが、季節に応じた外出は支援できている。	※	家族様にも参加して頂けるよう、促していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話・手紙共に、希望があれば支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時には明るく挨拶・声掛けをし、親しみを持てる場所であるよう、心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室に鍵はないが職員が把握できないところで外出される方がいる為、家族に説明し、了承の元施錠している。	※	玄関を施錠しなくても外への徘徊がなくなるよう、工夫したい。
			(外部評価) 道路に面した門扉は開けているが、日中、安全を考慮し、家族に了解を得て玄関扉は施錠している。夜間は防犯のため施錠している。	※	管理者は、施錠することの弊害を十分に理解している。声かけ、見守りを中心に他の方法についても考慮することを期待する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は入居者がどこで過ごしているかや安否を把握。夜間は一時間毎（注意が必要な方は頻回に）巡視している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じ、注意の必要な物品について、職員が管理し、必要に応じ使用して頂く時もある。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 (転倒の危険性のある方には見守り強化や状態変化の「気づき」等)		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時や事故の際は、マニュアルの手順で行うようになっているが、定期的な訓練は行っていない。	※	全ての職員が対応できるよう、訓練を行う機会を作っていく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害時に備え、運営推進会議で地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 (外部評価) 防災訓練は年2回実施している。市の消防訓練研修を受けている。町内会長が訓練に関して地域の方々との窓口になっている。緊急時連絡網は職員用と家族用を作成している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 面会時には体調のこと、リスクについて話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 常時、利用者の体調変化に気づき、他職員と情報を共有し、対応できている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が一人ひとりの服薬状況を、薬事情報等にて理解しており、服薬の支援、症状の把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便表を作成し、個々の排便状況を把握し、便秘時にはセンナ茶や乳酸菌飲料の飲用、また、主治医の処方の下剤投与、腹部マッサージ等、個人に合った対応をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後、利用者に応じた口腔ケアを行っている。(声掛けにて歯磨きを促したり、入れ歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量を毎回チェックしており、水分は摂取が困難な方の水分量を記入している。嚥下困難な方には食材を細かく刻んだり、水分にはトロミをつける等、している。 (外部評価) 介護老人保健施設の栄養士が献立を立てている。材料は一括購入で、調理はホームで職員が行なっている。嚥下困難だがパン食を好む利用者にはパンを調達したり、野菜が硬くて噛めない利用者には野菜ジュースを提供している。食事・水分摂取量は全利用者を記録している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 手洗い、消毒の徹底や汚染物処理については使い捨て手袋の使用に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、布巾等は、漂白剤に毎晩浸けており、調理時は食材にはしっかりと火を通し、食中毒の予防に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関を鉢植えで飾ったり、長いすを置いているが、玄関周りには急なスロープがあり、手すりがない為、不安を伴っている。	※	手すりの設置を提案していく。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や居間、食堂には花を活けたり、壁面を飾っている。また、直射日光を防ぐ為、よしずを立てかけている。 (外部評価) リビングには大きな窓が2つあり、明るく風通しもよい。壁には利用者の希望により、散歩の途中で拾ったイチョウの葉や季節の飾り付けをしている。玄関前に緩やかなスロープがあるので、手すりの配置などを検討することが望まれる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂の席の配置を考慮したり、食堂以外の場所へもソファ・テーブル・テレビを設置しており、利用者の方が好きな時に利用して頂いている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた本人の物を使用されたり、家族の写真を飾ったりと居心地良く過ごせる工夫を心がけている。 (外部評価) 筆筒、エアコン、カーテンは備え付けで、寝具や家族写真、絵など利用者の好みの物を持ち込んでいる。家族から床にマットを敷いて欲しいとの要望があったが、車いす転倒に配慮し、一部のみにするなど、職員は家族と共に利用者の暮らしやすい居室づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) その日の気温や利用者の体調・状況に応じて換気、空調に気を付けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子がすれ違える広さの廊下や要所の手すりの設置をし、安心して生活して頂けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個々の状態を把握し、声掛けやコミュニケーションを図り、自立して暮らして頂けるよう、支援している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑に作物や花を植え、水遣りや収穫をして頂いたり、庭で散歩・歩行練習出来るよう、努めている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	個々の会話や行動・状態で把握したり、家族から話を聞いたり、意向に沿えるよう心がけている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	常に心がけているが、利用者のレベルの違いが大きい為、レベルの低い方の介護に手を取られてしまい、ゆったり過ごす時間を作るのが困難である。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	集団生活であっても無理強いすることなく、一人ひとりのペースで生活して頂いている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者のその時の状態により異なるが、職員の声掛けにより喜ばれたり、物事に積極的に取り組む姿が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	時々要望されるが、本人尾状況や職員の時間の余裕の兼ね合い等で困難である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	医療面・安全面に対しての不安は少ないと思うが、自分自身の健康に対しての不安は老いと共にあるのではないかなと思う。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	状況と要望に応じた支援を出来る限り行うようにしているが、全ての利用者が満足しているかどうかは疑問である。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	面会頻度の高い家族様とは会話する機会も多く、信頼関係も築けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	利用者の面会以外の訪問は、今のところいない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事に参加させて頂いたり、日々の挨拶等により、少しずつ理解して頂けていると思う。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員一人ひとりが意見を言える環境にあり、皆が協力して仕事が出来ていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知度のレベルによって、個々の要求が異なり、こちらが対応できることについては可能な限り対応しているが、一人ひとりの要求に全て応じることは困難である為、満足しているかどうかは疑問である。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時の会話から、ほとんどの家族の方は満足して頂けているように思われるが、面会頻度の少ない家族は分からない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者が安心・安楽に暮らして頂けるよう、コミュニケーションを十分に図り、サービス提供に努めていきたい。

- ・地域の行事参加、同系列施設への行事参加
- ・外出…利用者様の要望を取り入れながら、行き先を考えている。
- ・庭の畑で作物を育て、収穫して頂く。